

## 【ユニット】 臨床入門

### 【ユニットディレクター】

UD：石橋 敬一郎（医学教育学）

UD 補佐：森 茂久（医学教育学） 山田 泰子（医学教育センター） 柴崎 智美（医学教育学）

川村 勇樹（教養教育） 荒木 隆一郎（医学教育センター） 米岡 裕美（教養教育）

杉山 智江（医学教育センター） 大西 京子（医学教育センター） 植村 真喜子（社会医学）

佐藤 義文（医学教育センター） 佐藤 寛栄（生理学） 金田 光平（医学教育センター）

杉浦 由佳（医学教育センター） 作山 洋貴（医学教育センター） 齋藤 恵（医学教育セ

ンター） 小池 啓子（医学教育センター）

### 【一般的な目標】

医学を学び、その成果をすぐれた医療人（臨床医）として実践できるようになるために、医学を学習することへの関心を高めるとともに、医学生として備えておくべき基本的な臨床技能及び態度を修得する。

### 【具体的な目標】

1. バイタルサインの測定方法を再確認し、より確実により迅速に測定できるように技能を高めて臨床の場で通用するレベルを身につける。
2. 臨床現場で必要とされるコミュニケーション能力を高めるために、コミュニケーションの基本を想起し、医療面接で重要とされる傾聴と共感的態度を中心に学習する。
3. 一次救命処置(BLS)の復習を行い、BLSが必要とされる状況に直面した際のチームダイナミクスを意識した対応を学習する。
4. 臨床現場において、集団に情報や思いを伝えるプレゼンテーションに関する基本的な知識や技法を習得する。
5. 重症心身障害児（者）施設での多職種協働（IPW：Interprofessional Work）を模擬的に体験し、保健・医療・福祉専門職の役割を理解し、連携に必要な視点を説明できる。
6. 体験学習（early exposure）の一貫として、医師業務見学実習を通し、早期より病棟、外来での診療の雰囲気を経験し、今後医学を学習する意欲をさらに高める。
7. 自己の体験を振り返り、ヒューマンケアの担い手としてひとをケアすることについて理解して、今後の自己の行動について説明できる。

### 【学習方法】

#### 臨床入門2 実習1：（春の部）

6グループに分かれ、6日間でコミュニケーション(医療面接の基礎)、プレゼンテーション技法、光の家療育センターにおけるIPWの体験（多職種協働実習）、バイタルサイン測定（血圧・脈拍の測定など）、一次救命処置(BLS)などの各実習を行う。

実習で得られた情報について小グループで討論と実習を行った上で、さらに全体会で発表と討論を行う。

#### 臨床入門2 実習2：（医師業務見学）

1-3名が1組で、大学病院、総合医療センター、国際医療センターのいずれかの病院の診療科で医師業務見学実習を行なう。実習内容には医師による病棟診療、外来診療、検査、病棟回診などの業務見学、CC step1中の5年生の実習および研修医の研修の見学、および医療チームの各専門職の存在を知ることが含まれる。

実習前に見学先の医師が所属している基本学科について調査し、予備知識を持って実習に臨む。質問等は、実習時間内に受け付ける。

## 【評価方法】

【本ユニットは実習扱いであり、90%以上の出席が必要である。】

本ユニットは良医になることを目指して、講義や実習に参加し、課題に取り組むことを求めている。そのため、医師を目指す医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合には、評価の対象とせず、不合格とする。

11月以降の実習はインフルエンザワクチンを接種していることが、実習参加の条件である。

出席、実習態度、レポートを勘案して100点満点で評価する。ただし、出席90%以上のものを評価対象とし、出席90%に達しないものは評価対象としない。

本ユニットでは全ての課題（提出物）の提出を確認した上で評価対象とする。具体的には、学務課や実習担当者に提出するレポート、健康チェック表、実習成果物等だけでなく、WebClassに登録する日々の振り返り（ログブック）、ループリック自己評価、レポート、ポストアンケートを含むすべての課題である。

また、それぞれの課題毎に決められた提出期限内に未提出の場合には、評価点を減点する。

やむを得ない理由で実習を欠席した場合には、出席が90%に達していても学年末（2月下旬-3月上旬）に補講を行うことがある。

## 【教科書】

- ◆ 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 新基礎臨床技能シリーズ1, 福島 統, メジカルビュー社
- ◆ 身体診察と基本手技 基礎臨床技能シリーズ5, 倉本 秋, メジカルビュー社
- ◆ 診療録の記載とプレゼンテーションのコツ 新基礎臨床技能シリーズ, 酒巻哲夫, 阿部好文, メジカルビュー社
- ◆ 診療ができる vol.1 身体診察(第1版), メディックメディア社

## 【参考書】

- ◆ 模擬患者とつくる医療面接, 寺沢秀一, 林 寛之, 氏家靖浩, ナカニシヤ出版
- ◆ 戦略としても医療面接術, 児玉知之, 医学書院

## 【授業予定表】

ICM: Introduction to Clinical Medicine

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
ICM1	05月28日	(火)	4~6	臨床入門2 実習1 オリエンテーション	UD, UD補佐, 他
ICM02 実習1-1	06月04日	(火)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM03 実習1-1	06月04日	(火)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
ICM04 実習1-2	06月05日	(水)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM05 実習1-2	06月05日	(水)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM06 実習1-3	06月06日	(木)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM07 実習1-3	06月06日	(木)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM08 実習1-4	06月07日	(金)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM09 実習1-4	06月07日	(金)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM10 実習1-5	06月11日	(火)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM11 実習1-5	06月11日	(火)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM12 実習1-6	06月12日	(水)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM13 実習1-6	06月12日	(水)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS)	UD, UD補佐, 他
ICM14 実習1-7	06月13日	(木)	1~3	臨床入門2 実習1 まとめ (全体発表とディスカッション)	UD, UD補佐, 他

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
ICM15 実習1-7	06月13日	(木)	4~6	臨床入門2 実習1 まとめ (スモールグループディスカッション)	UD, UD補佐, 他
ICM16	11月20日	(水)	1	臨床入門2 実習2 オリエンテーション	UD, UD補佐, 他
ICM17	11月27日	(水)	1~2	臨床入門2 実習2 オリエンテーション	UD, UD補佐, 他
ICM18 実習2	12月04日	(水)	1~6	臨床入門2 実習2 医師業務見学実習 大学病院, 総合医療センター, 国際医療センターの3病院で実施	UD, UD補佐, 他
ICM19	12月05日	(木)	1~3	臨床入門2 実習2 まとめ	UD, UD補佐, 他

「UD, UD 補佐, その他」と記載してある時間は、以下の者が担当している。

石橋 (医学教育学)、森 (医学教育学)、山田 (医学教育C)、柴崎 (医学教育学)、森口 (教養教育)、川村 (教養教育)、荒木 (医学教育C)、米岡 (教養教育)、杉山 (医学教育C)、金田 (医学教育C)、大西 (医学教育C)、植村 (社会医学)、佐藤 (義) (医学教育C)、藤森 (教養教育)、中平 (教養教育)、種田 (教養教育)、村上 (教養教育)、伊澤 (教養教育)、佐藤 (寛) (生理学)、林 (教養教育)、高橋 (総セ放射線腫瘍科)、吉益 (総セメンタルクリニック)、岡田 (総セ泌尿器科)、小山 (国セ泌尿器腫瘍科)、黒崎 (国セ骨盤腫瘍科)、柴崎 (由) (医学教育C)、作山 (医学教育C)、その他

## 【ユニット】

臨床入門

## 【ユニットディレクター】

石橋敬一郎（医学教育学）

## 【コンピテンス】

1. 社会人および医師としての基本姿勢
3. 診療技能・患者ケア
6. コミュニケーション能力

## 【マイルストーン】

- 1-(1). 医療専門職としての責任と使命を実感している。
- 1-(2). 医療機関での体験を通じて患者の生活や人生の重みを理解するための態度や価値観を確立している。
- 1-(3). 他者の意見を自分の意見に取り入れることができる。
- 3-(2). バイタルサイン測定、一次救命処置について行うことができる。
- 3-(5). 患者の基本的な臨床情報を適切に要約して提示することができる。
- 6-(1). 身だしなみ、言葉遣い、態度など、患者と接する際の必要最小限の基本を実践できる。
- 6-(2). 非言語的コミュニケーションを説明することができ、模擬患者を相手にコミュニケーションの基本を用いることができる。
- 6-(3). 模擬患者を相手に自分の考えを適切に伝えるとともに、相互に理解することができる。

## 【評価方法】

- 1-(1). オリエンテーション課題のレポート
- 1-(2). 光の家のレポート
- 1-(3). 模擬患者による評価
- 3-(2). シミュレーターによる評価
- 3-(5). チェックリストまたはバイタルサインはレポート、BLS は提出されたビデオの評価
- 6-(1). 出席、態度チェックリスト
- 6-(2). 模擬患者による評定尺度
- 6-(3). 模擬患者による評定尺度

## 【補習および再評価の方法】

- 1-(1). レポートの提出
- 1-(2). レポートの提出
- 1-(3). レポートの提出
- 3-(2). シミュレーターによる再評価

3-(5). レポートの提出

6-(1). レポートの提出

6-(2). レポートの提出

6-(3). レポートの提出